

Into my Packet



後藤滋樹の

新・社会楽

後藤滋樹
goto@goto.info.waseda.ac.jp
早稲田大学 理工学部 情報学科

第44回「マルチメディア宴会」

【マルチメディアとインターネット】

「マルチメディアの代表選手はインターネット」などと喧伝する向きもあるが、実際に音声や画像の通信を楽しんでいる人はまだまだ少ない。音声はボコボコ、画像は1秒間のコマ数が少なく、欠落するフレームもある。それに、どうせ僕の安物パソコンでは性能が足りないに決まっている。

しかし技術は着実に進展している。十分に実用に堪えるという評価もある。現に、仕事に活用している会社も出てきた。2時間の会議のために本社に出張するのは時間の無駄だ。新幹線に乗らずに、テレビ会議を使いたまえ。

学会や国際会議のために超多忙な有名人に『出演交渉』をすると、「テレビ会議ならば参加できる」という回答をもらうことがある。会場に立派なプロジェクターがあると、本物が登場するよりも迫力が出ることすらある。それなりに不思議な雰囲気は漂う。

世界の首脳が集まるサミットだって、マルチメディアとネットワークでやれば、警備の費用が不要になると言っていた。警備の余波で道路が渋滞することもなくなる。それに、首脳陣がもっと情報通信に関心を抱くようになるだろう。

【パーティもネットワークで】

「学会の発表はテレビ会議でよくても、やっぱり懇親会が大切だよ」

「賛成！ レセプションの場でこそ本場の意見交換ができる。これは実際に顔を合わせないと難しいと思うね」

「それじゃあ、いっそのことマルチメディア技術を駆使して、パーティもネットワークでやることにしよう。会場は2か所がいいね。立食だから画面を大きくするよ。食事は両方に用意すればいい。どうせ食事は別々にしていたのだから」

「スピーチは音声通信でOK。乾杯のビールの銘柄は会場によって違うけど、まあ気にしないことにしよう。乾杯の唱和が200ミリ秒ぐらいずれちゃうけど、仕方がない」

「あ、自分のグラスにビールを注いではいけませんよ。こっちからお酌をしないと。え、誰も周囲にいないって。それじゃ、ロボットの手を使って遠隔でビールを注ぐよ。これは結構便利だ」

「僕はキリン一番搾りを注いだつもりなのに、向こうの会場ではアサヒスーパードライを飲んでる。おっとっと。ビールのつもりで勤めたら、向こうでは日本酒になっているのか。これは油断禁物。おーい。ロボットの手のボトルを勝手に入れ換えたらダメだぞ」

「え、この会場で喋ると拡声されて全員に聞こえてしまうのか。これは失敗。マイクを局所的につけ直して、スピーカーも画面の近くに小さなものを用意しよう」

「こっそり内緒話をしたい人は、このカウンターに来てください。襟につける小型マイクと、ウォークマン式のヘッドホン希望者に貸し出します。向こうの会場と同じ番号同士で通信できます」

「おっ。スピーチだけでなく記念品の贈呈もあるのか。それは目録贈呈ではダメなの？ 仕方がないなあ。デジタルカメラで写真を送信しておいて、明日にでも宅配便で送るよ。花束は近所のフラワーサーバーが配達してくれるから」

「もしもし、そちらの会場はもうお開きにしたの？ そうか、食べる物がなくなってしまったのか。こっちは沢山残っているのだけれどもね。これは瞬時には運べないから仕方がないね。そろそろ終わりにしよう。バイバイ。接続を切るよ」

【厳然たる時差の存在】

いや便利になったものだ。カリフォルニアで安いワインを注げば、フランスではそこそこのボルドーに変換される。これは一種の錬金術だ。あ、その人、画面に醤油のシミをつけないでね。

でも、問題がある。カリフォルニアと日本では時差がある。こちらが午前10時で、向こうは夏時間の18時。向こうはワインパーティーでも、こっちは昼休みにはビールを飲みにくい。それじゃ日本は烏龍茶にしると言うのか？

うーむ。時差の問題が解けない。同時刻に開催しないとパーティーにならないけれど、同時刻が文字通りに同じでない。まさか参加者全員にメラトニンを配って無理に睡眠時間を調整するわけにもいきまい。地球はネットワークのおかげで狭くなった。でも、サイバースペースにも時差が影響するみたいだ。通信が発達しても、全部の生活を同期することはできないようだから。



Illustr : Harada Kaori



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp